

第7回 稲沢市部活動地域移行検討委員会（議事録）

令和7年7月16日（水） 10時より
稲沢市勤労福祉会館 3階 第4会議室

- 1 辞令・委嘱状の交付
- 2 はじめの言葉
- 3 あいさつ（教育部長より）
- 4 委員長・副委員長の選出
- 5 報告事項

(1) 各課より

事務局：実証事業の内容等について説明（学校教育課）。

委員長：野球、バレー、卓球は、実証事業を行わずにいきなり令和8年度の秋に突入するということか。

事務局：そのように考えている。来年度1学期については、大会直前になるため、計画を立てていない。今回は、実証事業を行う部活動が優先的に場所を使わせてもらうため、活動場所が被らないようにできるだけ運動場・体育館・体育館以外でそれぞれ1種目になるように考えている。

委員長：本格実施になったときは実際に被ることが出てくるのでは。そのための実証事業ではないのかなと思う。

委員：あまりに多くの種目が行われると調整が煩雑になると感じている。2学期と3学期のこの実証事業については、まず実証事業がうまくいくのか、課題は何なのかを確かめるためだけのものではないかと考えているため、今回の案でよいと考えている。

委員：令和8年2学期を見越してやっていくってところもすごく大事だと思うが、初めての試みで、まず2学期で色々問題も出てくるのではないかと考えたときに、今の時点で最低でもこの種目は行い、仮に2学期の実施がうまくいき、もしできるのであれば、種目を増やして進めていくことも1つの方法なのかなと思う。

委員：顧問の他の立場からすると、実証事業をどうやってやるのだろうかと思いをもっている先生たちが非常にたくさんいる。活動場所が遠くなる子どもたちが実際には参加しないのではないかと話題にもなっていた。部活動指導員についても、今は顧問がいるからやるが、いなくなる来年度は行わないという方もいると思う。そうすると、来年度以降の指導員がさらに不足してしまい、運用自体ができないのではないかと考えている教員もいる。

委員：現場の教員が、いな活についての理解度がかなり低いと感じている。まずは、少しでも多くの先生にこの実証事業に参加してもらい、いな活への理解を深めていくことが大切ではないかと考える。

委員長：学校で実際に指導している顧問があまり理解していないことが1つ大きな課題だと思う。先生だけでなく、生徒や保護者にも、しっかりしたものを伝えていくことが必要である。実証事業はある程度、実のあるものにしていき、次のステップに進められるようにしていく必要がある。ただ、やればよいのではないため、しっかりやっていないといけない。自分が今、部活動指導員になっている立場から言うと、それぞれの学校の部活動指導員はそれぞれの思いで指導している。それが、普段と一緒に活動をしていない、一緒にやったことのない指導員が一緒になるということは、その思いが一緒だったらいいが、すれ違いが起りかねない。その前の段階でしっかりすり合わせをして、指導方法、指導内容、考え方など、お互い確認をした上で指導にあたらないと、子どもたちにとって不幸なことになりかねないというような思いもある。指導員もこの実証事業の中で理解を深め、どこまでできるのか、どこまでやるのかってということも含めて、実証事業でしっかりと検証してもらいたいと思う。

事務局：部活動地域移行（地域展開）に向けてのQ&Aについて説明（学校教育課）。

委員長：怪我やトラブルの連絡について、非通知で電話をしたら保護者は出ないのではないかと。

事務局：事前に保護者には電話がかかってくる可能性があることは伝えていきたい。

委員長：今の時代、伝えても出ないと思う。

委員長：勝手に最初から受信拒否していく場合もあると思う。

委員長：事前に非通知でかかってくる場合があることを保護者に伝えるのではなく、指導員の電話番号を事前に知らせていく方法もある。

委員長：電話代も個人負担になっているため、今後考えていただきたい。

事務局：保護者との連絡については、実証事業での成果や課題を踏まえて、今後も検討していきたい。

事務局：部活動地域移行（地域展開）に向けての受け皿となるスポーツ団体について説明（スポーツ課）。

委員：中学生の受け入れについて、学校施設を利用しているスポーツ団体へアンケートを採られたとあったが、代表である私は聞き取りを行われていない。

今、学校教育課が色々動いてみえて、いずれそれが地域の方へとなるともっと増やしていかなければいけない。土日に限らず平日活動している地域の団体へ中学生が来る分には構わない。私のところだけでなく、そういう団体は多いと思う。改めてお金も払う必要なく、その程度であれば十分行えるのではないか。

事務局：柔道の指導を少しやっているが、数名なら可能だが、部活動として20人来てしまうと、一般の方や今来ている小学生の練習ができなくなってしまうことを心配している。

委員：部活で縛られてしまうと団体で動くことになるが、そうではなく、やはりスポーツや運動をやりたいことが大切であり、試合に勝つためではなく、その体を動かして楽しむという方向であれば、人数がどれだけ増えても教えることはできると思う。

委員：今後は学校教育課とスポーツ課で協力し合ってやっていかないといけない。学校教育課だけではどうなのかとずっと疑問に思うところがあった。地域を巻き込んでとなると、ある程度承認して受け入れとなる団体を広めていく必要があると思うので、考えていただきたい。

事務局：部活動地域移行（地域展開）に向けての受け皿となる文化団体について説明（生涯学習課）。

委員：ブラスバンド部については、実証事業についての取り組みとして入っていない。このままでは進まない。私どもも指導できるとすれば、どんなことができるか話はしているが、全然まだ決まっていない。

委員長：音楽協会からは、各中学校でそれぞれブラスバンド、吹奏楽について指導は行うことは可能という答えはいただいた。実証事業とかではなく、すぐにできるのであれば、吹奏楽部については、顧問の先生方と打ち合わせをして、例えば9月は〇〇中学校に派遣しますということもやろうと思えば可能である。学校側と市とのすり合わせも行っておらず、手当や今後のことも含めて考えていかないと、やる気はあるけどやれない状況である。鍵の管理などのセキュリティの問題については、早いところ解決していかなければいけないと思う。協力に前向きに言っているから、しっかり受け止めていただきたいと思う。

(2) その他

6 協議事項

(1) 令和7年度以降の取り組み（案）について（資料1）

事務局：地域移行（展開）に向けた令和7年度以降の取り組みについて説明。

委員：指導員への説明会を削られたということだが、今後新しく登録される方や今年度よりもさらに人数が増えるため、一斉に集めた説明会が必要だと思うがどのように考えているか教えていただきたい。

事務局：面接の実施時に来年度に向けた説明を加えていこうと考えている。また、面接できる日のある程度固めてできるように設定はしていきたいと思う。

委員：実証事業の問題点の洗い出し方については、どのように行っていくのか？

事務局：検討委員会で相談していきながら、指導員と学校現場にヒアリングしていきたいと考えている。

委員：今後のいな活に向けて、よりよくしていくために役に立つと思うので、ぜひ保護者や子どもたちの意見も聞いていただきたい。

委員長：実証事業を行った後で、時期が前後したり、新たなものが入ったりすることもあるが、大筋このような流れで進めていくということでご協力いただきたい。

(2) 今後の稲沢市が目指す部活動地域移行（展開）の姿（案）について（資料2）

事務局：稲沢市が目指す今後の部活動地域移行（展開）の姿について説明。

委員：この部活動の地域展開については、県内に関わらずどこもすごく苦勞している。稲沢市では、学校教育課が中心となって、部活動指導員を増やしたり、コーディネーターが入ったりと学校と行政とを繋ぎ、ここまで本当に学校のために、子どもたちのためにやっている。ただ、他の市町や他県のうまくいっているところは、やはりゴールの視点がまずはっきりしているということ、あとは行政の強いリーダーシップがあるということである。地域展開に向けては、やはり受け皿がないといけない。拠点場所での地域連携という形でやっているが、これまだ途中の段階で、これはゴールではないと思う。最終的にはやはり生涯スポーツ・生涯体育、最終的に地域の方で子どもたちと一緒に育てていくと、学校からは切り離すっていうところが私はゴール地点だと思う。学校はもちろん協力はするが、今の地域連携の形はゴール地点ではないと考える。今の時点でどうしろという訳ではないが、学校教育課だけでなく、スポーツ課や生涯学習課が本当に色々なところに頭を下げて頼んで、何とか受け皿を作ることで、それがうまくいっているという話をよく聞くので、ぜひスポーツ課や生涯学習課にも同様をお願いをしたい。特に吹奏楽は、やはり公共施設を借りて、そこに指導員が行くという形で行っている。今のように、各学校でやっているままでは、セキュリティの問題、楽器の問題などの課題が拭えない。最終的なゴールを、まず学校から切り離していくためにどんなことをしていかなければいけないのかを考えていかなければいけない。このままずっと行くのは市としてもよくなく、地域展開には繋がっていかないのではないかなと思う。

委員：今考えている案の通りで進んでいくのは本当理想かなとは思っている。そのためにも部活動指導員がまずは中心に進めていかなければいけない。100名近く集めなければいけないが、現状の集まり具合で拠点を組めるところまで見通しが立っているのかどうか。

事務局：部活動指導員については、現在ヒアリング段階なので、来年続けるかどうか確認している。応募される方も種目に偏りがある。ただ、ヒアリングの中でも、来年度以降の方向性が見えてなくて答えづらいということも聞いている。学校現場においても同様の意見があったため、今回大会等への参加についても含めて、形を示させていただいた。できるだけ早い段階で学校現場等へも示していきたいと思っている。ただ、指導員の数がいなくても拠点数が組めないのも、やはり兼職兼業による先生方も含めて、さらに指導員を確保していくことが現状の課題である。

委員：先日行った中学校1年生対象に実施したいな活に関するアンケート結果等についてはどうだったか。

事務局：昨年までと同様な値で、子どもの参加希望は50%を切っている。保護者については、70%程度希望している。ただ、大会の参加の在り方については示していないため、大会参加の方向性を示していくと数値は変わると考える。

委員：部活動の大会参加について、今後の方向性が不明なため、新入生のユニフォームの購入の仕方だとか物品の購入の仕方も、ずっと待っている部活もあった。そこが進んでいかないと、本当に学校現場としても困っている声がある。ブラスバンド部の鍵の問題についても、部活動指導員の方だけで校内に入れているような現状はないのではないか。その方々を信頼、信用して…というような記載もあったが、最近の社会情勢で自分たちの機器の持ち込みでさえなんか疑われるような現状があるにもかかわらず、校内に部活動指導員を入れて、様々なリスクがはらむ状態がある中で、本当にこの運用の仕方がいいのかっていうことを疑問に思う。先ほどあったように、ブラスバンドであれば外の施設でやっていくことを考えなくてはならないと思う。兼職兼業希望の教員の数も一定程度はいる。会のあり方について、早く示すことができるようにして

いく必要があると思う。

委員：県の中小定例の理事会の方にも参加しているが、まだ令和8年度以降のことについては話が出ていない状況である。正直、県の方向性を待っていると多分何も進んでかないと思う。大会への出場に関係することなので、最終的に稲沢市として地域展開をどのように考えていくのか、どこがゴール地点なのかを見ながら、出場の方は学校かいな活のどちらを主としてやっていくかを考えていくとよいと思う。

委員：県内の市、町によってはもう学校単位で中小体の大会は出ないと決めているところはあると聞いている。

委員長：先ほどの話にもあったように学校教育課だけの問題ではなくて、外（地域）に子どもたちの活動の場を移すということは、学校から離すということである。部活動という発想をいつまでももってはいけけない。生涯スポーツ、生涯体育、生涯の文化的な活動という風に考えていくと、そこを目指し、将来的に文科省のスポーツ庁も目指しているっていう風に捉えていけば、この地域展開は部活動とは違うものですよっていう発想に今後なっていかなければいけないと思う。そうでなければゴールは作れない。そのためにも、やはりスポーツ課や生涯学習課に骨を折っていただくことが今後もっと必要になってくる。何がやれるのか、何をしなきゃいけないのかを考えていただくことが必要である。生涯学習課も音楽協会が協力していただけるという前向きなご意見がある。セキュリティの問題があるのであれば、生涯学習課としてセキュリティの問題をどう考えていけるのか。学校の問題と捉えていると話が進まない。各スポーツ団体も含めて指導者の高齢化が進んでいると思う。スポーツ少年団でも子どもたちの取り合いが起こっている。中学生だけの活動という発想ではなくて、小学生から大人までの活動の中に、中学生が入って活動をするっていうようなことも今後考えていく必要があると思う。稲沢市だけではなくて、各地域の学校の現状では、勤務時間で部活動は終わりという地域が増えてきている。将来的に中学校の部活動をどうしていくかも今後考えていく必要があるのではないかな。教員の働き方改革として、部活動の見直しが始まった。今後もそれらを踏まえて、しっかり検討していかなければいけない。

(3) その他

7 その他

(1) 今後の予定

第8回 10月31日（金）10時～ 稲沢市役所東庁舎1階第8会議室

第9回 1月28日（水）10時～ 稲沢市役所第一分庁舎2階第2・3会議室

(2) その他